少年少女日本文学館 22

shimi inoue hisashi

汚点・春は夜汽車の窓から

しみ はる よぎしゃ まど

haruwa yogishano madokara miura tetsuo

井上ひさし（いのうえ ひさし）

三浦哲郎（みうら てつお）

ほか

少年少女
日本文学館 22

汚点・春は夜汽車の窓から

井上ひさし 三浦哲郎（ほか）

講談社

913

井上ひさし　野坂昭如　三浦哲郎　村上春樹

少年少女日本文学館　22

汚点・春は夜汽車の窓から

講談社　1987

258p　23cm

内容：汚点　小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話　凧になったお母さん　春は夜汽車の窓から　初秋　メリー・ゴー・ラウンド　貧乏な叔母さんの話　踊る小人

いのうえひさし　のさかあきゆき　みうらてつお　むらかみはるき

少年少女日本文学館
第二十二巻　汚点・春は夜汽車の窓から

定価　一四四〇円
（本体　一三九八円）

一九八七年　五月二十三日　第一刷発行
一九九〇年　二月二十八日　第四刷発行

著者……井上ひさし　野坂昭如　三浦哲郎　村上春樹
発行者……野間佐和子
発行所……株式会社　講談社
東京都文京区音羽二-十二-二十一
郵便番号　一一二
電話　東京（〇三）九四五-一一一一（大代表）

印刷所……株式会社廣済堂
製本所……黒柳製本株式会社

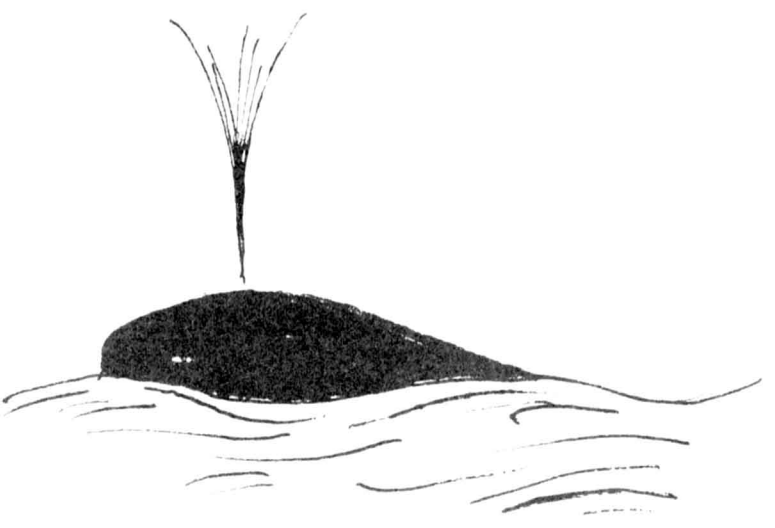
©井上ひさし　野坂昭如　三浦哲郎　村上春樹　一九八七年
落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にておとりかえします。なお、この本についてのお問い合わせは、児童図書第一出版部あてにお願いいたします。

Printed in Japan

ISBN4-06-188272-4　（児一）

もくじ

井上ひさし
汚点……9
野坂昭如
小さい潜水艦に恋をした
でかすぎるクジラの話……61
凧になったお母さん……75



试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

三浦哲郎
春は夜汽車の窓から……95
初秋……105
メリー・ゴー・ラウンド……124
村上春樹
貧乏な叔母さんの話……149
踊る小人……186
●解説――福田宏年……234
●随筆――野口武彦……242
●略年譜……248

◆この本の本文表記について

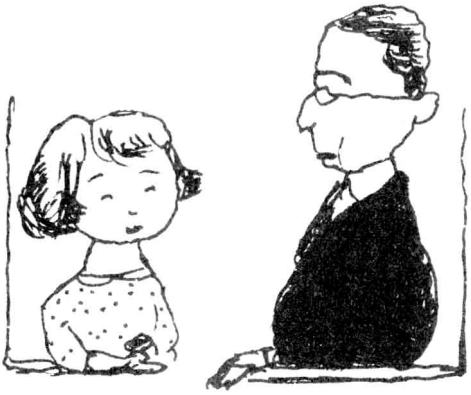
●現代かなづかい、現代送りがなを使用した。

●極端な宛て字と思われるもの、また代名詞・副詞・接続詞などのうち原文を損なうおそれが少ないと思われるものをかなにあらためた。

●本文は総ルビとし、むずかしい語句や事項には、小さな字で注を加えた。注と本文ルビが重なる場合は左側にルビをそえた。

●さらに説明を必要とする語句や事項には、＊をつけ、イラストやくわしい注をつけ加えた。

汚点(しみ)・春(はる)は夜汽車(よぎしや)の窓(まど)から



井上ひさし

汚点

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

汚点

弟の、その葉書の文面はいつもと大差はなく、「元気ですから安心してください」とまず輪郭のはっきりした字で始まり、「さっき、ラーメン屋のおじさんが酒を飲んでいるうちに、ぼくのことでおばさんと喧嘩になり、おばさんを三つか四つぶちました。おじさんはぼくのこともぶってやりたい、といっていました」と続いていた。弟はそのとき、岩手県南部の小都市のラーメン屋康楽に、ひと月千円の食費をつけて預けられていた。母はその千円の工面がつかず、滞納を続けているらしかった。弟はそのせいで厄介者扱いをされかかっているのだろう。「母ちゃんからは手紙も葉書もずうっときていません」このあたりから鉛筆の字がすこしずつ小さくなって

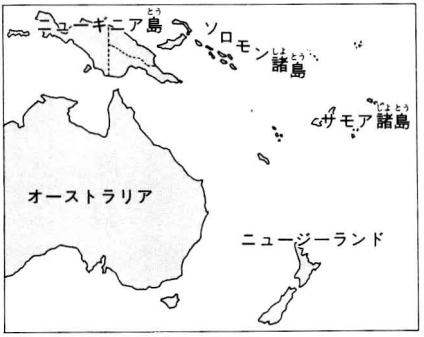
いった。葉書の余白の残り少ないのに気付いて慌てている弟の様子が目に見えるような気がした。

母から音信がないのはぼくも同じことで、そのころ母は、弟と住み込んでいたラーメン屋康楽をひとり出て、製鉄業と漁業とで大した景気らしいという噂に縋って岩手県東海岸の港町へ流れ込み、屋台の飲み屋を始めたばかりのところだった。

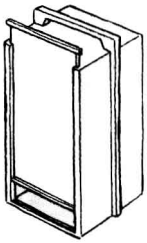
筆まめな母が弟やぼくに便りをくれなかったのは、生まれてはじめての酔っぱらい相手の商売をなんとかやりこなそうと、そのことで頭もいっぱい手もいっぱいだったからだろう。弟にそのへんのことをもう一度くわしく書いてやらなくてはと思いながら、ぼくはその先を読んだ。末尾の文章はさらに細かい字で、「かならず手紙をください。かならず」と彫りつけるように力をこめて書いてあった。

汚点さえなければ、それはいつものとおりの葉書だった。

零れ落ちたラーメンの汁か、垂れ落ちたレバ煤めの汁か、それはむろん分からなかったが、淡い黄褐色の汚点を数個ばら蒔かれた葉書は、はじめは南太平洋地図のように見えた。オーストラリア大陸そっくりの大きな汚点の上方に、ソロモン諸島やサモア諸島と見合ういくつかの小さ



ソロモン諸島、サモア諸島



岡持ち箱
食べ物を持ち運ぶときに用いる持ち手のついた箱。

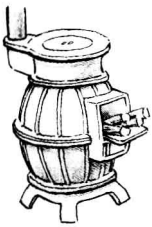
な点々。しばらく見つめていると、出し抜けに南太平洋地図は大小の黄信号の群れに変わり、「おまえの弟になにか起ころうとしているぞ、辛いことが起ころうとしているぞ」と、ぼくに警告を発しはじめた。

弟は食費千円の少年下宿人から少年店員あるいは少年出前持ちに格下げされ、料理の汁の乱れ飛ぶ店のカウンターあたりで、葉書を書かなくてはならない身の上になってしまったのではないだろうか。汚点の中に、身長の半分ほどはたっぷりある出前用の岡持ち箱を細い腕で引き摺って歩く弟の姿が浮かび上がった。夜の闇の中から、野良犬が数匹あらわれて、出前持ちに牙を剥く。少年は立ち竦み、岡持ちを取り落とす、がちゃん！……

……ダニエル院長がストーブに薪を焼べ、がちゃんと音をさせて蓋を閉めた。それから、葉書を見詰めたままで、いつまでも事務室から出て行こうとしないぼくを見て、

「どうかしましたか？」
と、声をかけた。
孤児院で働く他の修道士たちの話によると、このダニエル修士は、かつて母国のカナダで、大いに行く末を嘱望されたオルガン奏者だったそうだ。ある時、ある演奏会でバッハを弾いている最中、突然、オルガンの鍵盤の上に神の御子キリストを視、そして宙に、主からの召し出しの声を聴き、演奏を途中でやめ、会場から真っ直ぐにキリスト教学校修士会という修道会を訪れ、それっきり俗世との縁を断ってしまった。
ダニエル修士が、この東洋の島国に孤児院を建てるためにやって来たのは戦前のことだが、すぐ大戦が始まり、修士は、他の外人神父や修道士たちと共に、仙台市郊外の収容所に叩き込まれてしまった。修士は収容所で五年間、戦闘機の翼の木組みを作らせられたそうだ。つまり、日本軍は外人の作った翼で外人と戦っていたわけだ。もっとも最後の一年は木組みを組むにもその材料がなくて、工場で豚を飼育したらしい。戦が終わって釈放されるとすぐ、修士は収容所跡を払い下げてもらい、そこに一棟の修道院と、二棟の孤児院を建てた。この孤児院がナザレト・ホームで、その収容児童のひとりがぼくだった。

ストーブ（一一ページ）
鉄製のストーブ。側面にまきをくべる口と灰をおとす口がついている。



バッハ
ドイツの作曲家・オルガニスト（一六八五～一七五〇）。バロック音楽を集大成した。作品に「マタイ受難曲」など。

修道会
厳しいきまりのもとで共同生活を営み修行をつむキリスト教の団体。

進駐軍　**将校**（一四ページ）
進駐軍は、一九四五年、日本の無条件降服にともない、日本を占領した連合国軍（アメリカ軍）のこと。将校は軍隊で少尉以上の階級をいう。

「なにかあったんですか？　なにか悪い報せですか？」
ダニエル院長はストーブの傍から執務机（事務をとる机）に戻り、机上に肘をついて白く細く長い指を組み合わせ、その上に尖った顎を載せ、ぼくを下から眺めあげた。
弟が苦労しているらしいんです、はっきりしたことはわかりませんが、そんな気がするんです、とぼくはいった。
「そういわれても無理なのです」
修士は先回りして釘をさした。（そうならないよう念を押した）
「孤児院の定員は三十五名です。ところが今は四十一名もいます。廊下にはみ出したベッドで寝ている子が六人もいるんですから」
それはよく知っています、とぼくは応じた。ぼくもその廊下にはみ出したベッドで寝ている六人のうちのひとりですから。
「そうでしたね。それから見てください、このたくさんの入所申込書を……」

修士は机上の籠の中から一束の書類を取り出し、ぼくに示した。

「……交通事故で両親をなくした小学四年生。再婚した母親と新しい義父に反抗して不良とつき合っている中学三年生。*進駐軍 将校に貰われて行ったがその将校が朝鮮で戦死したので再び孤児になってしまった小学五年生。母親に死に別れ父親も病気になって入院し親戚を盥回しにされている中学生……」

よくわかりました、とぼくはいった。書類を全部読んでくれなくても事情はわかっています。ぼくは顔の筋肉を無理に動かして笑顔を作りながら事務室を出た。背後で、ダニエル院長がこう独り言をいうのが聞こえた。

「もっとお金がほしいものです。金があればいくらでもベッドはふやせます。天主様に祈るほかありません。もっとも、天主様に祈っても、あの方はお留守の時が多いのでねえ」

事務室の隣は、ぼくらの勉強部屋で、さして広くもないところに、勉強机が四十一も詰め込まれていた。そのために通路は自然なくなってしまっていて、窓際のぼくの机に辿りつくには、他の子の椅子から椅子へ飛び石伝いに跳んで行かなくてはならなかった。弟のことが頭を占領していたせいか、ぼくは途中で足を踏み外して転倒し、その勢みに、机をひとつひっくり返してし

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com